

IV. まとめ

今年度の利用学習事業は、これまでで最も多い学校から申し込みをいただいた。日程の調整がつかないなど、諸般の事情から受け入れができない学校もあり、この場をお借りしてお詫び申し上げたい。

今年度も4月・5月期に申し込みが集中した。歴史学習の効果を高めるために、授業内容にあったタイミングで施設を利用したいという先生方のねらい、そして平成23年度から本格適用となった新学習指導要領を受けて、地域の博物館等の社会教育施設を積極的に活用することが強く意識されてのものと考えられる。社会科学習の一環として授業で取り扱われた（あるいはこれから取り扱う）、歴史学習の始まりとしての狩猟採集生活が、両施設での授業を通して体験・体感的に子どもたちに伝わるよう、工夫を重ねることが重要である。

その一方、受け入れる施設側からすると4～6月は修学旅行や校外学習など利用の多い時期であり、団体利用集中期にあたる。この期間に、学校側の希望日程を全て受け入れることは、施設設備および人的配置の面からできない場合も多く、利用学習日程の変更をお願いする事例も生じてしまった。施設体制の充実を図っていきたい。

同時に、より多面的な施設利用を提案し、社会科以外の学習効果が期待される授業が実施できれば、自ずと利用時期は拡散することが予想できる。今年度は、地底の森ミュージアム・縄文の森広場担当者で定期的に会合をもち、新たな利用方法の開発を始めた。学校ではできない魅力的な授業は、施設の特長をもとに館職員が開発に取り組み、先生方の意見を取り入れることで可能になるであろう。今後も内容の広範化・深化を検討していきたい。

授業に参加した子どもたちは実際に遺跡を目にすることで、その価値を感じていることは会話や質問、さらに各校の報告書から伝わってくる。また、本事業の目玉である過去の道具を製作する体験活動を通して、教科書の内容がより深く理解され、資料を見る目が養われていくことも感じられた。野蠻や未開のイメージが強い旧石器時代や縄文時代の人々の暮らしを見て、体験することで、その後の時代、現代、未来の暮らしを考えるきっかけとなっている。